

あび北フォーラム

2022年度の歩み

議事録編

2022年度開催のあび北フォーラム概要.....	1
第12回「あび北フォーラム」議事録.....	2
第13回「あび北フォーラム」議事録.....	6
第14回「あび北フォーラム」議事録.....	11

2023年3月
あび北フォーラム
事務局編

2022年度開催のあび北フォーラム概要

<p>第12回フォーラム</p> <p>開催日；令和4年7月2日（土）</p> <p>場所：我孫子市民プラザ</p> <p>出席者：</p> <p>自治会・管理組合 ：33名</p> <p>市役所 ：3名</p> <p>我孫子市社会福祉協議会：3名 （地区社協含む）</p> <p>事務局 ：14名</p> <p style="text-align: right;">（総計： 53名）</p>	<p>概要</p> <p>① テーマは「自治会と社協（地区社協含め）とのあり方」として社協の諸活動を自治会に良く理解して貰うことを目的とした。</p> <p>② 社会福祉協議会は民間の非営利団体で社会福祉法人。地区社協は各地区での福祉全般の課題に取り組む下部組織でボランティア住民が主体。</p> <p>③ 対面での講義形式だったが、自治会へ社協の本部・地区幹部から直接説明して頂き活発な質疑応答があった。</p>
<p>第13回フォーラム</p> <p>開催日：令和4年11月27日（日）</p> <p>場所：北近隣センター並木本館</p> <p>出席者</p> <p>自治会・管理組合：27名</p> <p>市役所 ； 4名</p> <p>北地区社協 ： 3名</p> <p>事務局 ： 11名</p> <p style="text-align: right;">（総計： 45名）</p>	<p>概要</p> <p>① テーマは「自治会と我孫子北地区社協との連携を考える」として自治会が北地区社協の活動を十分理解出来き、連携できる様に設定した。</p> <p>② 久しぶりに3グループに分けてのグループ討議を開催して活発な意見交換が出来た。</p> <p>③ 北地区社協への理解度は現状ではまだ不十分との印象だった。</p>
<p>第14回フォーラム</p> <p>開催日：令和5年2月19日（日）</p> <p>場所：北近隣センター並木本館</p> <p>出席者：</p> <p>自治会・管理組合：25名</p> <p>市役所 ： 3名</p> <p>事務局等 ： 16名</p> <p style="text-align: right;">（総計：44名）</p>	<p>概要</p> <p>① テーマは「自治会って何？」とした。前回までの社協との意見交換会で自治会活動が身近な雑務に追われて、本来の活動は何なのかを、今一度見直してみるべきではと判断での設定となった。</p> <p>② 今回は、「自治会」というテーマなので、従来の地域別のグループ分けを変更して、マンションや戸建てをミックスして2グループに分けて、自治会の在り方について意見交換した。</p>

第12回「あび北フォーラム」議事録

開催日： 令和4年7月2日（土） 13時30分～16時30分

開催場所： 我孫子市民プラザ（あびこショッピングセンタープラザ内3F）

参加者： 自治会等： 33名

我孫子市役所市民協働推進課 課長他2名

我孫子市社会福祉協議会 会長他1名

我孫子市北地区社会福祉協議会 会長 1名

地域会議事務局 14人 （計 53人）

1. 挨拶

事務局長

今回の第12回あび北フォーラムは漸く新型コロナ禍が下火になった中開催できることとなった。前回第11回あび北フォーラムでは、「防災対策」の中での「高齢者支援」のテーマで行った。今回は「共助」の観点から日頃社会活動を行っておられる「社会福祉協議会」から講演を頂き各自治会との交流を図れたらと考え開催の運びとなった。「我孫子市社協」並びに「我孫子市北地区社協」双方からの講演である。

市民協働推進課

我孫子市には地域会議が7つ(?)あり、「ふりこみ詐欺対策」「子供の安全」等、各地域独自のテーマで開催されている。その中で北地区地域会議は「防災」を基軸とされておられることは承知致しております。今回「防災」の中での「社会福祉協議会」との関係を取り上げられた事は更に進化されてきていると思います。

我孫子市社会福祉協議会

今回「社会福祉協議会」をテーマとして取り上げて頂いたことには感謝している。各自治会のご理解をえられ広く我孫子市民へのご理解を得られるよう心掛けて行きたい。社会福祉協議会の組織陣容、又事業についてお話をさせて頂きたい。

2. アンケート調査結果報告

(配布したアンケート結果を、パワーポイントを使用し結果報告)

- ① 「社会福祉協議会」の認知度に関しては、名前も活動内容も知っているは、20%ほどに留まっており、80%の人々は活動内容をよく知らない。
- ② 各自治会が「社会福祉協議会」へ会費を払っているが、その用途については理解されていない。
- ③ 社協の広報誌はまあまあ認知されており、その中でも地区社協の広報紙の方が認知されている。
- ④ 北地区社協へは各自治体から約70%は委員を出しているが、その割には、自治会から地区社協への相談はほとんどない状態である。その委員から各自治会へのフィードバックがどれだけあるかが課題ではないか？
- ⑤ 自治会の支えあい活動の内容は、災害時での安否確認、見守り活動、高齢者サロン、住民間での助け合い活動などである。
- ⑥ 北地区社協の事業内容の認知度(よく知っているの割合)は、広報紙を除くとほとんどは20%以下の認知度である、市社協の事業認知度については、地区社協より低く、そのほとんどは13%以下

である。

3. 「社会福祉協議会」概要説明（市社協事務局長）

- ◇ 全国社協、都道府県社協、政令指定都市社協、市町村社協は『公助組織』（社会福祉法人）という位置づけ。「民間非営利団体」なので従業員は公務員ではないこと。（民間企業の従業員と同じ）
- ◇ 社協活動は『公助組織』の団体の他に、『共助組織』（任意団体）という位置づけの「地区社会福祉協議会（地区社協）」があり、我孫子市では6つの地区社協が活動している。地区社協は、社会福祉法人ではなく任意団体なので、そこで活動されている方々は無報酬のボランティアで行っている。（人件費以外の活動拠点の運営費、イベント等の経費等は『公助組織』である市社協からの助成金によっている）
- ◇ 「社会福祉」とは？⇒「人々の幸福」そのものであり、そのための活動のすべてが”社会福祉活動”となる。
- ◇ ”市社協の特徴”の「制度化されていない新たなサービス開発」の事例としては、60歳以上の方への配食サービスや制服バンクサービス（配付資料③）などがある。
- ◇ 我孫子市社会福祉協議会（市社協）に自治会が団体会員として参加して頂くことになったのは、我孫子町に1965（昭和40年）に「社会福祉実践団体」が設立されたときで、このときから自治会に団体会費をお願いすることになった。
- ◇ （我孫子町が我孫子市になったのは1970年（昭和45年）7月）
- ◇ 団体会費（自治会）は、最初（昭和40年）は1世帯50円で、途中で100円/1世帯になり、平成10年からは200円/世帯でお願いしている。（我孫子市の場合）
- ◇ 我孫子市6地区の地区社協は、住民主体の地域福祉活動を行う『共助組織』（任意団体）として、平成9～10年度にかけて組織され、事務所が設置された。
- ◇ 北地区社協は現在11,500世帯。

4. 質疑応答

Q1.（フォーラム事務局）

配付資料②の6ページに記載の「Ⅲ. 第6次我孫子市地域福祉活動計画（R4～8年度）」の「1. この計画の位置づけ」のところで、（左側に記載の）我孫子市総合計画・基本構想の第6次はR2～6年度であるのに対して、（右側に記載の）我孫子市民の福祉活動計画の第6次はR4年～8年度とある。この期間が2年間ずれている理由は？

A1.（市社協）

最初の策定期間が2年ずれたことによる。過去には、同一期間にした方が良いのではという意見もあったが、2年ずれていることにより、市の活動計画期間4年間の2年目に、市民の4年間の福祉活動計画を策定することになる。同じく、市民の活動計画期間4年間の2年目に、市の時期の4年間の活動計画の策定期間になる。そのことで、相互に中間点での実施状況の確認ができるメリットがあるとの考え方で、あえて、策定期間をずらしている。

Q2.（フォーラム事務局）

同じところの質問だが、（右側に記載の）我孫子市民の福祉活動計画「地域福祉活動計画（住民活動計画）」は誰が策定しているのか？

A2.（市社協 事務局長）

6地区の地区社協連絡協議会および各地区の地区社協（委員）等で策定している。

Q3.（フォーラム事務局）

この「地域福祉活動（住民活動計画）」の推進主体は誰？（事務局）

A3.（市社協 事務局長）

当該の地域住民が推進主体です。当該の地区社協は配付資料②の9ページ上段に記載の5つの目標を掲げて、目標毎の取組む事業を行い、推進主体である地域住民の互助「支えあい・助け合い」活動を支援している。

Q 4. (フォーラム事務局)

この「地域福祉活動（住民活動計画）」の内容は、どこで参照できるのですか？

A 4. (市社協 事務局長)

「我孫子市社会福祉協議会」のホームページ（配付資料②の 10 ページの QR コード）から参照できます。

Q 5. (我孫子中央自治会 会長)

我孫子中央自治会は 80 歳以上が多くなってきており、ごみ出しも困難な家庭がある。自治会ではごみ出しの「助け合い」活動を行っている。これは地域福祉の互助（共助）活動になると思うが、このような活動に対しての市社協からの支援（補助金）は可能でしょうか？

また、ノラ猫の保護活動（去勢、里親探しなど）を行っている。この活動も地域福祉活動の範囲と思うが、この活動に対する市社協からの支援（助成金）は可能でしょうか？

A 5. (市社協 事務局長)

ごみ出しが困難な家庭のごみ集積所までのごみ等の排出支援については、市（のクリーンセンター）が「ふれあい収集事業」として実施しているので、対象になる方はクリーンセンターに申し込みをお願いします。

天王台地区社協では有償でごみ出し支援を行うことを検討中とのこと。

ノラ猫については、保護活動を行っている団体があるので、「て・と・り・あ」に相談して欲しい。

<意見交換>

(北地区社協 会長)

北地区社協では、若い委員さんが参加しやすいように、委員会の開催を日曜日に変更した。また、「困ったときの相談窓口一覧表（2022年2月1日発行）を3月に北地区の各戸に配布したので活用して欲しい。広報誌「あびこ北地区社協だより」を年3回発行して活動を住民に広報している。今回は北地区の自治会の代表の方々が出席されている良い機会なので、北地区社協への自治会からの要望や意見などがあれば伺いたい。

(つくし野北自治会 会長)

今回のテーマが「自治会と社協との連携について」とあったので、連携の話を期待して参加したが、社協の説明だけだったのは残念だった。

(フォーラム事務局 事務局長)

アンケートから、自治会と社協の関係はどちらかという「疎遠」という感想を持ちました。

社協側から自治会へのアプローチをもっと行っていくことも必要だと思います。

(北地区社協 会長)

自治会からの要請を頂ければ、自治会に出向いていきますので、よろしくをお願いします。

(フォーラム事務局)

私も高齢者住民として何か社会福祉協議会の活動に参加したいと思っている。自分がどの事業なら参加できるのかを探している。今回のフォーラムで、北地区社協の64事業の具体的な内容を知りたかった。北地区社協でイベントなどで支援者を募集することがある場合、それはイベント設置の為に要員なのか、事業参加者なのかを教えてください。

(北地区社協 会長)

世代間交流を根戸小と並木小で開催しており、お手伝い頂ける方を募集しているので、よろしくをお願いします。

それ以外のイベントでのお手伝いについては、今日の午前中の認知度サポーター会議も実施したが、現在のメンバーで実施できているので、いまのところは新たなお手伝いの募集はしていない。

(グラン・レジデンス居住者会 防災会事務局)

グラン・レジデンス居住者会は7割が若い世帯で、それらの方々の支えあいで活動している。高

齢者もサロン活動をやっている。若い世帯と高齢者世帯の交流を深めるイベントとして何ができるかという話があり、若い人がパソコン・スマホの操作を高齢者に教えてはという話になり実施している。また、中庭で輪投げ大会も実施し、交流を深めており、活性化が図られた事例になっている。

(北地区社協 会長)

グラン・レジデンスの取り組みは参考になります。

(フォーラム事務局 (我孫子第一地区民協 民生・児童委員))

民生・児童委員をやっているが、新たに委員になって頂ける方が少ない(いない)。そのため、民生・児童委員のいない空白地域が生じている。民生・児童委員のいない空白地域を少なくしていきたい。地域の見守りをしていくにも自治会の協力は不可欠です。よろしくお願いします。民生・児童委員を募集しています。

また、「8050問題」も顕在化しつつあります。「まったりサロン」を設置し「ひきこもり」の人の交流を図っています。これらについてみんなで考えていきましょう。

5. まとめ・連絡事項

フォーラム事務局長から

本日のフォーラムでは時間の制約上、社協の概要説明になったが、事業内容などは、「社協のしおり(保存版)」冊子に詳細に記載されているので、ぜひご覧頂き、自治会との連携の参考にして頂きたい。

あび北フォーラムは、同じ地域の自治会間で意見交換・情報交換を行うグループ討議を行う進め方をするところだが、新型コロナの影響で、(2020年9月27日の)第9回フォーラム以降は、グループ討議なしの勉強会をしてきました。

次回のフォーラム開催は秋(11月頃)を予定していますが、その時には、グループ討論ができるようになって欲しいと思います。本日は、猛暑の中、ありがとうございました。

以上

第13回「あび北フォーラム」議事録

～テーマ「自治会と我孫子北地区社協との連携について考える」～

開催日： 2022（令和4）年11月27日（日） 13時30分～16時30分

開催場所： 我孫子市北近隣センター（ホール、会議室1, 2, 3、調理室）

参加者： 自治会等： 27人

我孫子市役所市民生活部 部長他3人

我孫子北地区社会福祉協議会 会長他2人

我孫子北高齢者なんでも相談室 室長他2人

地域会議事務局 8人（計 45人）

配布資料：

- ①フォーラム開催概要
- ②我孫子北地区社会福祉協議会の活動案内とご協力をお願い
- ③フォーラム出欠一覧表
- ④アンケート用紙

1. 開会挨拶

○事務局長

前回（第12回）までは新型コロナの影響で講義形式で行ってきたが、今回（第13回）は本来の円卓会議形式で開催することができる状況になりました。前は我孫子市社会福祉協議会の事業内容を学んだが、今回は我孫子北地区社協会長より北地区社協の具体的な事業内容を紹介して頂き、その内容について3グループに分かれて意見交換を行って頂きます。意見交換を通して、北地区社協の事業の理解を深めて頂き、自治会と北地区社協との連携について考える契機になること、そして近くの方々と顔見知りになり地域の更なる活性化に繋がることを期待します。

○市民生活部長

自治会など地域で活動する皆様による話し合いを設ける取り組みは平成25年度より始まりました。それぞれの地区では、防災や買い物支援、見守り活動や挨拶運動、通学路の安全点検など様々なテーマで話し合われ、話し合いだけではなく具体的に取り組みにつながった地域もあります。

このあび北フォーラムも防災をテーマに災害時の高齢者等の要援護者の支援、タイムラインの作成、災害訓練などを行ってきたと聞いています。今年度は、自治会と市社会福祉協議会・地区社会福祉協議会との連携をテーマに開催されており、地域のコミュニケーションづくりにとっても重要な活動だと思います。

市としてもあび北フォーラムの取り組みを支えていきたいと考えており、皆様にはこのような場を活用して地域コミュニティの活性化をさらに進めて頂ければと思います。

2. 北地区社協の事業概要説明

会長様から、資料②により、北地区社協の一つ一つの事業についての概要説明が行われた。

会長から、今回のフォーラムに期待することについて以下の発言があった。

「地域の皆さんとお話しをさせていただくと、『市社協・北地区社協はどんな活動をしているのかわからない』という方が多いと感じております。これは地元への認知活動の不足が要因の一つと自らは反省しています。広報誌の発行だけでは不十分だと思っております。今回は、あび北フォーラムで北地区社協の事業概要を説明させていただき、グループディスカッションで、「自治会と北地区社協との連携について考える」とのテーマで意見交換をして頂けるとのこと、感謝申し上げます。

このフォーラムを契機に、皆様から自治会会員様への北地区社協の事業についての広報活動をこれまで以上にサポートして頂けますようお願いする次第です。

また社協の活動に参加頂いている方から、社協の活動内容説明や活動状況報告を自治会総会あるいは自治会役員会で行いたいとの申し出があった場合は、時間を割いて頂ければと思います。社協活動への理解が地域の皆さんに広まることを期待しております。」

3. グループ討議模様

A、B、Cの3グループにわかれ、グループ討議を行った。各グループの討議模様は、以下に記載。
別紙 「Aグループ討議模様」・「Bグループ討議模様」・「Cグループ討議模様」

4. まとめ（グループ討論概要報告）

グループでの討議概要を、ファシリテーターから報告してもらった。

（Aグループからの報告）

討論では様々な発言があったが、北社協についての理解度向上が課題との認識を共有した。

【討論で出た主な発言】

- ・地域の問題として、ゴミ出しの問題や自治会に参加しない・自治会に入りたがらない・役員をやりたいがらないなどの発言があった。また、ひきこもり問題、8050・7040問題も深刻との発言もあった。
- ・『終活』のお手伝いをする意味で社協が外向いて、必需品と不用品の分別・整理を行ってはどうか？ また、不用品は地区社協のバザーで売るなどして地区社協の運営経費にあてることもできるのでは？との発言があった。
- ・その他、「要支援者リストの保管が自治会長だけで不安」「住民リストを自治会は持っていない」「防犯カメラの設置が遅れている」「新しいマンションはゴミ集積場所があるが、古いマンションではゴミ集積所に困っている」などの発言があった。

（Bグループからの報告）

「自治会内の会合で社協の活動について話題になることはあるか？」を質問したところ、参加7自治会の中で、3自治会で会費が話題になったことはあるとのことだが、社協の活動内容が話題になったことがある自治会は無かった。地区社協から毎年、委員を1名出して欲しいとの自治会に依頼はあるが、自治会の役職で自動的に委員兼務となる自治会と、これまで委員をされている方がそのまま継続される自治会とがあり、自治会の推薦によるという意識で派遣している自治会は無かった。そのため、自治会として委員の方から地区社協の話を聞くということはしていない。

本日のフォーラムで地区社協の活動について説明があったが、あまり認識していなかった。

市社協に年会費を払っているにもかかわらず認識していないのは、毎年替わる自治会役員自身が自治会内のことを行うことだけで精一杯で、他の団体のことを考える余裕がないことによるところが大きいとのことであった。

前回と今回のフォーラムで、社協の事業には自治会会員に知ってもらったら良い事業が多くあることがわかり、そのことは社協の広報誌などで回覧されているようだが、社協の広報誌を自治会回覧で回しても読まない人が多いとの発言もあった。

ファシリテーターより、「自治会が社協との連携を考えるには、自治会会員に社協の事業内容に関心を持ってもらうことが前提。まずは社協の広報誌を回覧時に読んでもらえるように工夫することから社協との連携が始まるのではないだろうか」との発言がありディスカッションを終了した。

（Cグループからの報告）

地区社協への委員派遣について確認したところ、自治会が組織的に派遣しているところは少ない。自治会から委員が出ていても、個人として参加していることが多い。自治会とのパイプはあまりないのが全体的な状況。自治会の役員は1年交代なので、役員として社協に出ていても、辞めるとすぐパイプが途切れてしまうことが問題。まち協の話も出て、同じように自治会から委員が出るが形骸化しており、自治会とのパイプがないことはまち協も同じ。そこをどうやれるのかが課題との話があった。

高齢者の問題や幼稚園・保育園が対象ばかりではなく、住んでいる人は高齢化しているが、現役世代の人たちが自分の親をみるところにも社協は焦点を当てて、現役世代の人に支援をできるようにしてみてはどうかという話も出た。

本日のフォーラムを介して地域の中で色々な顔見知りが増えて、地区社協会長にも休み時間に積極的にパイプ作りをしてもらったので、それを次の活動に生かしていければと期待している。

5. 連絡事項

事務局より、次回（第14回）のあび北フォーラムの開催予定日についてアナウンスされた。

【次回開催予定日：2023年（令和5年）2月19日（日） PM】

6. 閉会宣言

事務局より、閉会宣言が行われ、閉会した、

以上

【別紙「Aグループ討議模様」】

・自己紹介のあと意見交換が行われた。その主な内容を以下に列記する。

1. 地区社協の事業内容の説明の中に「終活」の話があったが、『終活』のお手伝いをする意味で社協が出向いて、必需品と不用品の分別・整理を行ってはどうか？ また、不用品は地区社協のバザーで売るなどして地区社協の運営経費にあてることもできるのでは？
2. 社協が現在行っているバザーは年一回なので、もう少し回数を増やして、終活での不用品処分を定期的に行うというのはどうだろうか？終活での不用品の収集は自治会に協力してもらい、社協とのやり取り回数を増やすことで関係が深くなり、また、収益増も見込めるかもしれない。
3. 「8050」のひきこもりの話が出たが、孤独・孤立も大きな問題。
コロナの影響もあり孤独・孤立の問題は0歳からの高齢者まで拡大している。昨年の内閣府の調査では孤独・孤立は30代が一番多かったようで、8050問題が7040問題と拡大している。自己紹介時に所属自治会の高齢化の話が出ていましたが、つくし野地域でも考えていかなければいけない問題です。孤独・孤立の問題は電話相談や窓口相談で待っているだけでは支援に繋がらないので、訪問相談など実際に行くことで支援を届けることが必要になってきている。孤独・孤立の原因の一つに家族関係の崩壊があり、家族関係を再構築していくようなことから始めていく必要がある。
4. 孤独・孤立問題が顕在化する前に把握して支援を届けることができればいいと思うが、毎年役員が交代する自治会役員では把握が難しいと思うし、把握した情報で支援を届けるにしても（その役割を担う）民生委員のいない地域も増えていることも課題。（民生委員の充足率が年々低下している）
5. 自治会の会長や役員になり手がいない自治会では、回覧板を回すのが精一杯な状況。
6. 社協の活動内容を回覧するが、役員は見るけど一般の自治会会員の方は自分に直接関係するもの以外は見ない。回覧ではなく全員配布でも同じ。（当然のことなのでそれを前提に対応することが必要）
7. 全員が直接の利害関係にあるゴミ集積所の利用と管理についての自治会の役割は大きい。
8. マンションに入居している方には、孤独・孤立の問題があることはわかっているけど、お互いが干渉しないことをメリットと思っている方が多く、コミュニティ活動を難しくしている。（平常時はコミュニティがなくても不都合は感じないが、非常時（災害時など）ではコミュニティが減災に大きな役割を果たしており、最小限のコミュニティ活動は必要）

以上

【別紙「Bグループ討議模様」】

・自己紹介のあと意見交換が行われた。その主な内容を以下に列記する。

1. 自治会の役員会で社協が話題に上がることがあったかとの質問に対し、地区社協の委員は、原則、自治会から1名を推薦してもらい就任してもらっていて、会費も自治会として払っているにもかかわらず、自治会の総会や役員会で会費が話題になった自治会はあったが、社協の活動が話題になった自治会はなかった。
2. 地区社協から毎年、委員を1名出して欲しいとの自治会に依頼はあるが、自治会の役職で自動的に委員兼務となる自治会と、これまで委員をされている方がそのまま継続される自治会とがあり、自治会の推薦によるという意識で派遣している自治会は無かった。そのため、自治会として委員の方から地区社協の話を聞くということはしていない。

3. 自治会の役員が1年で交代するところは、自治会の年間スケジュールをこなすだけで精一杯というのが実情。それも内容を理解するまでには至らず、前年度を踏襲するだけでやっとなところ。そのような状況なので、社協を含め外部団体との連携を考えるとどこか、どのような活動をしているのかを学ぶ余裕がない。そのため、地区社協の委員になっている方から、自治会総会や役員会で地区社協の話をしたと言われても対応できないのが本音のところ。
4. 地区社協の広報誌・イベントなどのチラシを回覧はしているが、一枚目だけみて2枚目以降は見ない人も多い。そのため、複数の回覧物を一緒に回すときには、回覧物のタイトル一覧を表紙に付けて、2枚目以降の回覧物の内容が何かわかるように工夫している自治会があり、他の自治会の参考になった。
5. 自治会の役員になった方が、ご自身あるいは家族・知人が地区社協の世話になるような年代でなければ、地区社協の活動に関心はないだろうが、いつかはお世話になるわけで、お世話をしてくれる家族がいなければ社協を頼らざるをえなくなる。その社協の活動は地域の方々に支えられていることを広く知って貰いたい。
6. 今年度役員になった方からは、地区社協について学ぶことができ有意義との感想があった。地区社協が自治会に出向くといっても、自治会内で社協活動の理解者が増えていかないと広がらない。来年3月には役員を交代する方もいるが、その方は自治会内で社協活動の理解者としてサポートをお願いしたい。
7. 社協の活動内容を伝える広報誌やチラシの自治会内での回覧等の伝達方法については、自分に関係する情報はピックアップしてみるの今の回覧等の伝達方法でいいという意見と、見落として回覧することもあるだろうから、もう一段の工夫をしたいという意見の両方があった。いづれにしても、回覧を行う役員自身が回覧する情報を誰に伝えたい(読んでもらいたい)かを考えて、その方には伝わる(読んでもらえる)ような伝達(回覧)方法となるよう、お願いしたい。

以上

【別紙「Cグループ討議模様」】

・自己紹介のあと意見交換が行われた。その主な内容を以下に列記する。

1. 自治会への委員の派遣状況について
 - ・モアクレストでは自治会の役員と社協の委員はルールにより自動的に決まっている。
 - ・エールの丘は社協に団体加入はしているが委員は出していない。
 - ・グランレジデンスは社協の委員は有志で対応しており、組織として社協委員を出してはいいないことから社協の出来事を自治会にフィードバックできていない。
 - ・シティアは自治会福祉部の方が兼任することになっている。今年度は担当が時間的に難しいため、前年度の方が委員を継続して行っている。
 - ・パークシティは自治会がなく、社協の会員になっていない。
 - ・松園は2名が委員になっている。
 - ・新生は会計監査が社協委員を担当することに決まっている。
2. 委員の派遣状況の課題
 - ・モアクレスト：役員任期が一年であり社協との連携が深まらない。個人(有志)だと自治会役員から離れてしまうと自治会との関係が難しい。そのためか、社協の活動自体認識していなかった。しかし、モアクレストも29年経つので高齢者対策が必要になってきている。高齢者支援関連のセミナーなどの活用を考えていきたい。
 - ・グランレジデンス：役員任期が1年に対して、社協委員の任期は2年となっており、自治会役員の兼務は難しい。また、社協の活動は平日が多く、現役の役員は兼務が困難。そのため、数年前より役員を継続して参加している。今後、役員を退任した後は福祉分科会に属して社協の活動をすれば、福祉分科会担当役員を通じて自治会にフィードバックはできるのではないかと考えている。
 - ・エールの丘：自治会員は現役がほとんどで、OBは私のみという現状で平日の活動は時間的に難しい状況。
 - ・シティア：既存の活動はマンション内で行えるので、外に出ていくことについては話が進んでいないと思う。地区社協からマンション内に出向くというものについては、今後相談したい。

3. その他の課題

- ・グランレジデンス：シニアクラブがあるが、参加しない高齢者をどうしていくかが課題。子供会はない。
- ・エールの丘：シニアクラブ憩いの会があり、17人が活動しており、毎月どういう意見を発信していけばいいかなどを話している。子供会はない。
- ・シティア：シニアクラブあり・子供会はないがキッズグループで活動している。
- ・パークシティ：自治会が無いため、何もなし。
- ・モアクレスト：シニアクラブ・子供会はない。同好会はゴルフ・囲碁などいくつかあり。
- ・松園：シニアクラブは自治会の中の組織として、自治会が補助している。踊りやゲートボール、独居老人を見守り会もあり。子供が少ないため子供会なし。
- ・新生：小さい自治会のためどちらもなし。

4. その他の特徴的な活動について

- ・パークシティでは移動式の子ども食堂を地域の方に活用してもらっている。福祉の活動を弱者だけでなく若い共働きでも苦しい生活をしている方もいるので、そこに目を向けていく活動が紹介された。
- ・シティアでは地域の農家の方に月1回朝市（野菜マルシェ）を開いてもらっている。最初は盛況だったが、最近はお客数が減少してきているとのこと。

5. 北社協活動についての意見交換等

・グランレジデンス：

- 高齢者でひきこもりの方のサポートを考えているが、参考となるサポート事例があれば紹介して欲しい。
- （ひきこもりの方は大勢でのコミュニケーションが難しい方が多いので）小人数でできる会合（ゲームなどでもよい）を企画し、参加の声掛けを継続していくというやり方が良いようです。とにかく、顔見知りになってもらう活動を根気よくやっていくことではないかと思う。（北地区社協）
 - 夏祭りなどのイベントに参加してもらうなど、いろんな機会に根気よく声掛けをしていくことではないでしょうか。（ファシリテータ）

・エールの丘：

- 個人情報を知られたくない方が増えてきているようで、自治会役員が声掛けするだけでも一苦勞する。（地震や大雨洪水などに備え）どの家庭に避難行動要支援者がいるのかを自治会で把握し維持更新したいが何か良い方法はないか？
- （高齢者なんでも）相談室や民生委員、近所の方などと情報交換を密にしていき、その方たちと一緒に訪問する方法も良いと思う。（北地区社協）
 - 松園自治会では、市役所から避難行動要支援者名簿を受け取り、対象者と面接を行い、子供の連絡先の把握、地震の際に家屋に入ってよいかの確認をして対応できるようにしている。民生委員、防災会、シニア会とも協力関係を構築している。自治会の役員は1年交代だが、防災会は17年継続している者もいる。

・新生自治会：

- 役員が1年交代で、役員の集まる場所がないことから活動は限定的。そのような状況を踏まえて、地区社協の事業の中から個別に選択できるものを利用していくことにしたい。

・モアクレスト：

- 今回の北地区社協の事業メニューは参考になったので会員に周知するようにしたい。

・ファシリテータ：

- 高齢者や幼児などの弱者ばかりではなく、現役世代に向けた親の見守り方法の提案を検討してほしい。例えば、田舎(実家)の親の見守り方法や介護などについての講演会を開催するなど、高齢者を持っている家族の問題の切り口で現役世代とのつながりを作ってほしい。

- 田舎(実家)がある社協との社協同士の連携は可能なので、そのような場合の相談にも対応したいので相談して欲しい。（北地区社協）

以上

第14回「あび北フォーラム」議事録

～テーマ「自治会って何?」～

開催日： 2023（令和5）年2月19日（日） 13時30分～16時30分

開催場所： 我孫子市北近隣センター（ホール、会議室2-3）

参加者： 自治会等： 18自治会等 25人
我孫子市役所市民生活部 部長他2人
地域会議事務局等 16人（含：書記2人） （計 44人）

配布資料：

- ①プレゼンテーション資料「自治会・町内会って何? どうする!自治会・町内会」
- ②我孫子北地区社協の出前講座（終活セミナー）申込書と勉強会資料「終活あれこれ」

1. 開会挨拶（要旨）

○事務局長

- ・前回フォーラムで、“自治会の定型的な業務を行うだけで精一杯、他の団体との連携を考えるまでの余裕がない”という話が出ていたので、自治会としてやるべきことは何なのかを皆さんと考えてみようということで今回のテーマにした。
- ・コロナも落ち着いてきたので、前回同様、出席者同士の連携を深められるようグループディスカッション形式での開催としたので、忌憚のない意見交換ができればと思う。

○市民生活部長

- ・現在、我孫子市では190の自治会が組織の規模や地域の実情に合った活動をしている。
- ・加入率は平成24年75.5%だったが、令和4年4月1日現在は69%と下がってきている。近隣市の加入率（柏市64.9%・松戸市67.2%・流山市62.5%）よりは高い。全国的にも加入率は減少傾向にある。
- ・自治会は、防災や防犯、見守り活動、地域の清掃活動やゴミ集積場の管理などまちづくりにとって大切な役割を担う組織であって、市民の皆さんが最も身近でまちづくりに参加できる仕組みとして、これからも重要な組織。
- ・自治会という仕組みを継続していくには、これまで以上に地域の方々が活動できる方法を模索していく必要があり、今回、改めて自治会を見つめなおす機会を持つことはとても意義あること。我孫子北地区のまちづくりの発展につながることを期待する。

2. グループディスカッションでの参考情報の提供

事務局長より、プレゼンテーション資料「自治会・町内会って何? どうする!自治会・町内会」を用いてグループディスカッションでの参考情報の提供が行われた。

3. グループ討議模様

2グループにわかれ、グループ討議を行った。各グループの討議模様は、以下に記載。

別紙「Aグループ討議模様」、別紙「Bグループ討議模様」

※前回までのテーマは地域性があったことから、グループ分けは地域を意識した3グループとしていたが、今回のテーマは地域性には依存しないことと、これまでのグループとは違った自治会との交流の和も広げるため、グループをシャッフルし2グループとした。

4. まとめ（グループ討論の感想報告）

事務局から討論の感想を報告してもらった。

（Aグループからの報告）

（事務局からの）プレゼンテーションで、自治会活動を否定的に捉えてしまうような自治会の運営上の問題や運営事例などが紹介されたので、グループディスカッションではこういった意見が出るのかなと思っていた

が、出席の自治会では、プレゼンテーションにあるような事例はなく、自治会活動に非常に積極的であり、いろんな取り組みが報告された。▼役員選出でもいろんな事情を抱えながらも選出方法を工夫してやってきていることや自治会運営上の今後の課題などが紹介され、それぞれ積極的に取り組みをしていることがわかった。▼出席の方々は、「今後さらに取り組みを繋いでいけたらいいな」、「できればそれぞれ連携できるところは連携していきたいし、そうなればいいな」と思われたのではないのでしょうか。▼皆さんの自治会での活動に参考になる意見交換ができたと思う。

(Bグループからの報告)

Aグループ同様、積極的に発言があり、各自治会の積極的な活動状況を共有できたと思う。▼特に印象に残ったのは、新規転入世帯への自治会加入への対応です。加入率100%を達成している某自治会では、新規転入世帯に個別に会長自らが「自治会加入のメリットと非加入のデメリット」を説明しているとのことでした。いっぽうで、非加入世帯のある自治会からは、「自治会加入のメリットがわからない」という方にどのように接したらよいかわからずにそのままになっていたが、100%達成の自治会の対応などを聞いて参考になったとのこと。▼自治会に加入するメリットが説明出来る活動をしていくことがポイントで、そこが自治会継続のキーであり課題であることを共有できたと思う。

5. 連絡事項

- (1) 北地区社協会長から配布資料②のご紹介があった。
- (2) 事務局より、次回(第15回)の開催予定日についてアナウンスがあった。
【次回開催予定日：2023年(令和5年)6月18日(日) PM】

6. 閉会宣言

事務局より、閉会宣言が行われ、閉会した、

以上

【別紙「Aグループ討議模様」(敬称略)】

自己紹介のあと、事務局プレゼで紹介されたアンケートを基に、意見交換が行われた。発言のポイントを要約整理して以下に列記する。

・グランレジデンス

入居者には(自治会は)必要ないという考えの方もいるが、マンションが一つの町みたいなので、全入居者に自治会に加入している。自治会活動への参加は全員とはいかないが参加者は多い。▼自治会に非協力的の方をどうやって巻き込むかが課題。▼主なイベントは、夏祭り、文化祭、クリスマス会、新春落語の4つだが、それに固執しすぎているのかもとも思っている。▼子供会は解散して今はない。▼子供だけでなく高齢者も参加できるイベントなどを民生委員含めて考えなければと思っている。

・シティア

シティアのコンセプトはコミュニティ活動を大事にということで、自治会には全員加入。初期はコミュニティ・自治会活動が非常に活発だったが、今年で20年になり、入居者の高齢化が進んでいること、コンセプトを知らずに後から入居した人も多くなり、自治会役員をどう維持していくかが問題。▼役員は40人で、33班の班長・副班長(66人)から選ぶ。副班長と班長は、1年目に副班長、2年目に班長を行う2年の輪番制なので選出での問題はないが、忙しいから役員はできないという人も増え、そのような方は役員会に出てきても非協力的。▼2年間の役員終了後に、自治会活動に残ってもらえる方を増やすことが大事と考え、任期後の手伝い・参加OKという人に部会ボランティアとして残ってもらっている。

・シティア

役員の負担は変わってきているとは思いますが、今回、役員をやってみての感想ではまだ負担は大きいので、見直しは必要と思う。▼若い人にも自治会に興味を持ってもらうため、お祭りの企画などを若い世代に提案してもらうなどに取組んでいきたい。

・つくし野北

最近、空き巣が増えているが、隣り近所の関係が強い地域では空き巣は少ないと言われている。防犯という点から住民同士の関係を強める自治会は必要だと思う。▼今は共働きが増えて、地域で繋がりを持つのが難しい状況になってきている。情報入手や繋がりには SNS で得られる時代なので、自治会も時代にあわせて変えていく必要があると思う。▼自治会運営は世代のバランスがいいと上手くいくことが分かった。若い人はパソコンが得意でいろんなものを作って発信してもらえたり、高齢の方は昔からのことをよく知っており参考になる意見も多いなど。▼そこで、ブロック長（役員）選出を、今回は会長（私）と副会長で各ブロックを回り、世代バランスがとれる選出をお願いした結果、例年より早く 1 月中旬にはバランス良い構成で選出が完了した。▼転入住民への自治会加入の呼びかけについて、某自治会の会長に聞いたところ、「自治会加入は義務という言い方ではなく、転入への感謝を伝え、ゴミ分別の紙を渡したり、自治会での防犯パトロールや子供たちが遊びやすいようにするための公園清掃などと伝えると、加入への拒否反応はなくなる」とのこと。やってみようと思っている。

・つくし野中央

自治会は必要と思うが、コロナ前に行っていたバス旅行、祭り、ビアパーティがコロナ禍で実施できていないので、何もやらないなら自治会費を払う必要はないのではという意見もある。コロナの収束後、どうするかという難しい時期だと思う。

・つくし野中央

現在、994 戸のうち 900 戸が自治会会員。加入率 90%。未加入 94 戸の内、明確に嫌だという人は私が理解しているのは 28 戸で、それ以外は施設に入っているなどで実際には住んでいない方とかです。コロナ禍で夏祭りを子供たちにしてあげられなかったのが、今年はぜひやりたいと思っている。自治会役員をやめる時は、後任を自分で選んでと言われている。そこは課題だと思っている。

・つくし野みどり

移り住んで 15 年ほど、お祭りやウォークラリー等、楽しかった思い出が残っており、自治会は継続して欲しい。▼自治会は 83 世帯で班は 5 つ。班長・役員は番地順で 1 年目班長、2 年目役員になる輪番制。拒まれる方はいない。順番でなることで歴代役員の苦労がわかり、輪番制もいいと思う。

・並木

マンションが 1/3、戸建てが 2/3 くらいで会員数は 575 世帯。14 班で、班長と組長は、高齢・足が不自由などの理由を除き、基本は順番。▼会長は順番ではなく話し合い。会長になり手がいないので私が 14 年継続。あと 10 年ぐらいは出来ると思うがその後を引き受けてくれる人がいるかが心配。▼役員同士の親睦は大事なので慰労会は行っている。年 3 回程実施。自治会って案外楽しいねっていう形になり、親睦が深まっている。▼役員任期後も関わりたいという方には相談役になってもらい、現在相談役は 10 人まで増え、相談役が役員のサポート役になり、うまく回している。▼子供会は、去年 3 月に解散した。▼町内の大掃除で、手伝う方が以前と比べると減少。高齢化が進んでいると感じる。少子化・高齢化が進む中、今後、自治会を維持していけるかが課題。▼転入されてきた方に自治会加入でのメリットを聞かれ、「自治会が町内の防犯灯の管理、ゴミステーションの管理、町内会の掃除などを行っていること、夏祭りなど自治会のイベントに参加できる」事などを伝え、加入して頂いた。

・並木八丁目

町内だけを見ると、自治会は必要ないという方もいるが、（市役所など）対外的な活動は、個人と自治会では全然違うと思う。▼高齢化は自治会運営での今後の大きな課題。▼子供会も児童数が年々減少、役員の担い手がいないことから継続可能かという問題がある。子供会を一旦解散すると再度結成する手続きが大変なので、解散は行わずに活動を休止とし、児童が増えたら再開できるような形で残して欲しいと思っており、子供会の役員と話をしないといけないと思っている。

・並木八丁目

40 年近くも経過すると皆さん 1 回は経験している、しかも役員就任の依頼が難しい高齢で一人暮らしも増加。若い人は共働きが多く、参加はするが、役員は無理と言ってくる。この状態が続くと自治会活動は

厳しい状況。▼自治会名簿だが、今は、個人情報ということで住所・電話番号など全部消されている。つながりのための自治会なのに、つながる情報が掲載できないのは矛盾。活動が制限されている。▼並木地区には自治会連合会があり、自治会を跨るようなことはそこで話し合い、必要なら市に地区として要望を出せるのでよいと思っている。

・パークシティ

13年ほど前に近隣自治会から加入要望があったが、総会決議で自治会に入る必要はないということになった。

▼マンションの防災を考えている中で、周辺住宅の避難民を受入れる緊急事態に備えて平常時から近隣自治会の方と顔を合わせたりお話ができる機会が欲しいということで、このあび北フォーラムへ参加が始まった。▼役員も昔は断ることは難しかったが、今はいえる世の中になって、昔のやり方の延長では、自治会を維持することは難しいと思う。特に若い方は入る必要性を感じないようなので、加入してもらうには、活動自体や近隣との繋がりが防犯になるなどのアピールが必要と思う。

・パークシティ

いま、初代の防災委員長で、防災として食堂型のキッチンカーを呼んだり、野菜を直接卸業者さんから仕入れて販売したり、いろんなイベントをやってきたが、またやっくださいという方だけで、自分も協力するという方は増えない。そういう状態で継続していくのは難しいと思っている。▼理事をしていて、防災については何もないことを知って、防災委員会を立ち上げ、防災委員を募集したが、応募は5人。防災マニュアルを作り、今期からそれに基づき防災訓練をやっていく。災害時に最悪なことにならないように準備だけはしておきたいと思っている。

以上

【別紙「Bグループ討議模様」(敬称略)】

自己紹介のあと意見交換が行われた。その主な発言のポイントを要約整理して以下に列記する。

・アクアレジデンス

理事会と自治会は別。▼自治会は主に隣の音がうるさいとかのクレーム対応やイベントとして夏祭りなどやっている。▼防災関係は、管理組合も自治会も関係する。

・エールの丘

自治会と管理組合は別。自治会は482世帯。賃貸も自治会加入が入居条件。▼防災には注力、巨大地震時の備蓄や、停電でエレベーターが使えない時、高齢者とかを助け出すために、布担架や電源など最低限の備蓄に取り組んできた。防災担当は2~3人で、自治会の防災担当が担っている。▼20年くらい経って、子供が少なくなったが文化事業として、年1回のお祭り、御神輿のレンタルをして、日本文化を子供たちに伝えられればと思ってやっている。▼自治会としてもサークル活動を推奨し、力を入れて取り組んでいる。住民5人以上でサークル認定。サークルには年何時間は施設使用料無料チケットを発行。▼役員は16人で任期は2年。毎年、役員を半数交替としている。

・我孫子中央

うちの町会は、今、空き家はなく、世帯数96。高齢世帯が増えたので順番制は止めて、班長など役員は会長の私が回って、若い方に就任してもらっている。▼お祭りとかは、あびこショッピングプラザの協力を得て、あびこ中台とうちの3つの町会でしている。▼回覧は、急ぐもの、重要なものは全戸分コピーしてポストに配布、それ以外を回覧という工夫をしてタイムリーな情報共有を図っている。▼転入者からは自治会になぜ入らなきゃいけないのか？という質問がある場合は、ゴミステーションの管理は自治会が行っており、いやなら個人でクリーンセンターと話して収集してもらってくださいといっている。そうすると加入する。それくらい言わないとダメ。▼災害時にはショッピングプラザの駐車場に営業時間外でも自家用車を止められるように、自治会があびこショッピングプラザと協定を結んでいて、自治会会員にはその駐車券を用意している。

・我孫子中央

会長・副会長はコロナ前までは輪番制でなんでも先送りして進まなかったが、コロナ禍で現会長が3年間継続してきたことで変わった。防災の取組みなどはしっかりした人が長くやった方がいいと思う。

・けやき

大体30年前に越してきた方が多く、高齢化が進んでいる。最初の頃は活動もやっていたが、最近は難しい。世帯数が28世帯と少なく顔見知りなのでお互いを気遣いながら暮らしている。

・けやき

小さな自治会なので、負担になる活動は避けようと全員一致。▼役員は輪番制で1年ずつ。最低限のことしかやっていないがそれで回っている。▼高齢化で、今後どうなっていくのかは心配。

・つくし野東

町会できて45年ぐらい。当初からいる人は80歳後半で高齢化が進行。防犯・防災が課題。▼高齢化で公園掃除も参加者が減少し大変なので、市の管理にしようと考えたが、公園清掃が唯一の集まる機会なので、負担にならない範囲で続けている。▼自治会に加入しない方がいるが、無理強いして何かあると困るので何もしていない。▼地域に民生委員がないので、(自治会の)厚生担当が各家庭を訪問し、独居老人宅を把握して自治会で見守っている。見守り活動の中で心配事があった時、このフォーラムで知り合った何でも相談室に相談して対応できて良かった。▼自治会での見守り活動は、独居の人は自分は大丈夫だと思い、家族持ちには余計なことではと危惧する声もあるが、老人世帯の中では必要なことだと思っている。

・つくし野南

自治会は15班から構成。各班1名が役員に就任する。役員は、自治会10人、防災会5人の計15人。▼役員から会長を決めるが、高齢者は足が悪いとか、若い人たちは共働きや子供の送り迎えとか、また土・日も仕事の方もいて、会長がなかなか決まらず、今回も私が会長を引き受けることになった。▼LINEで月報を流している。今年6月1日に料金改定があり、無料のメッセージ通数の月1000が、月200に変更され、それ以上は有料(月5000円)となるので、年間では6万円。世帯数は278なので役員会でどうするかという話になっている。

・天子山

世帯数は97世帯。一戸建てが中心。前はマンション(50世帯)も自治会に加入していたが、管理組合役員と自治会役員の兼務負担が大きいこと、マンションではゴミステーション管理や街路灯管理が不要だったことから、自治会加入のメリットが無いということで10年くらい前に脱会。▼自治会は3班構成。会長は2年任期で3班が持ち回りで運営しているが、会長へのなり手がいないのが現状。次年度役員は役員未経験者の中からくじ引きで決めたが、今後はどうするのが課題。

・並木7丁目

自治会は持家が207世帯、賃貸が50世帯、トータル257世帯。▼自治会は、日常的にはゴミステーションの管理、町内清掃、公園の維持管理、情報回覧やポスティングなどを行っている。この日常的に行っていることが防犯・防災では大きな役割を果たしているとの報告があり、その意味からも自治会は必要と考える。▼自治会運営では、3年前から、役員会などの資料を自宅でも閲覧できるようにクラウド上へのアップを進めたことで、情報共有の作業性は格段に良くなった。また役員間の連絡はLINEを活用するなどコロナ禍でもできることをやってきている。これからの時代にあった自治会の運用に変えていくことが必要だと思う。▼自治会では今後、情報管理担当を新設する予定。自治会の活動記録を残すのも大事なので、書記を増やすなどの組織強化も検討中。

・並木9丁目

世帯数は255で11ブロックにわかれている。戸建て中心。去年は5世帯の転入があり、4世帯は加入したが1世帯は加入を断られている。ブロック長(組長)もどうしたらよいか困っているが、今日のフォーラムを参考に、自治会加入のメリット、非加入のデメリットをはっきり伝えられるようにしていければと思う。

・モアレスト我孫子ヒルズ

世帯数189で、そろそろ30年になる。組織としては、自治会担当を含め、防災、防犯、防火組織など全て理事会の中に入っている。▼ゴミ処理とか、回覧、配布、集金なども全て理事会が管理組合として事業者へ委託しているため、問題はなく、イベントもなければ、何もしないで済む。

30年経って高齢化が進む中、今後も何もしないで済むとは思えないので、様々な情報を得ながら考えていきたい。

以上